

法人向けセキュリティサービス

Cloud App Security

(利用マニュアル)

第 1.6 版

2024/02/22

◆目次	P1
はじめに（必ずお読みください）	P2
1．開通案内メールの受領&管理コンソールログイン	P3
2．対象のクラウドアプリとの同期化	P4
3．その他設定	P9
＜参考1＞セキュリティポリシーの設定/利用開始(デフォルト設定活用)	
＜参考2＞セキュリティポリシーの設定/利用開始(監視のみ)	

1.はじめに(必ずお読みください)

本マニュアルは、法人向けセキュリティサービス利用規約上に規定される機密情報の一部をなすものです。

本マニュアルの取り扱いにつきましては、当該規定に従い、十分ご注意下さい。

「Cloud App Security」ご利用の流れ

① 開通案内メールの受領 & 管理コンソールログイン確認

「サービス提供開始のお知らせ」に記載された内容に従い、ログイン ID と初期パスワードの確認後、管理コンソールにログインします。



② 対象のクラウドアプリとの同期化

監視を開始するために、対象クラウドアプリのアカウント情報を Cloud App Security 側に登録し同期します。

※本マニュアルでは「Microsoft Office 365」を例に説明いたします。

詳しくは次頁以降をご参考ください。



③ 検索開始

お客さまのご用途に応じ、セキュリティポリシーの設定を行って、脅威の検索を開始してください。

※セキュリティポリシーの設定方法については、

オンラインヘルプ(管理コンソール上部の「？」ボタンを押下) および

本マニュアル巻末の＜参考 1＞を参照ください。

1. 開通案内メールの受領 & 管理コンソールログイン

① 開通案内メール受領

サービス開通日に合わせ送信される、以下の2通の開通案内メールをご確認ください。

■1 通目

件名：サービス提供開始のお知らせ - Cloud App Security

FROM：cas-info@sec-business.net

平素は、NTT コミュニケーションズのサービスをご利用頂きありがとうございます。
お申込みいただきましたサービスがご利用可能となりました。

Cloud App Security をご利用いただくにあたり、
以下、お客様のサービス提供情報をお知らせいたします。

サービス名	Cloud App Security
ご利用開始日	{日付} ※日本標準時(JST)
契約回線 ID(N 番)	{N 番}
お客様名	{契約者名}
お申込みライセンス数(合計)	{ライセンス数}

<登録完了のご案内>

お客さまのアカウント登録が完了致しました。

アカウント情報など、Cloud App Security ご利用開始に必要な情報については、
本メールアドレス宛に「新規アカウント発行のお知らせ」を別途お送りいたします。
※ログイン ID の確認や、パスワードの設定などの初期設定が必要となりますため、
必ずご確認くださいますようお願いいたします。

パスワード設定後は、以下の URL から管理画面にログインできます。

→ <https://clp.trendmicro.com/Dashboard?T=h0hEU>

利用マニュアルは以下の URL からダウンロードできます。

サービスに関する手続きについては、こちらのご利用ガイドをご覧ください。

→ <http://support.ntt.com/cas>

<以下省略>

■2 通目

件名：新規アカウント発行のお知らせ

FROM：cas-info@sec-business.net

<中略>

利用開始にあたっては、ログイン用のパスワードを設定する必要があります。次の URL からパスワードを設定してください。なお、この URL は 7 日間のみ有効です。

<https://Forgetpwd.trendmicro.com/ForgetPassword/XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX>

パスワード設定後は、次の URL からログインできます。

<https://clp.trendmicro.com/XXXXXXXXXXXXXXXX>

<以下省略>

※本章に記載されている画面、申込書はあくまで参考です。

実際の画面・申込書とはレイアウト・項目数が若干異なる場合があります。

② 初期パスワードの設定

「新規アカウント発行のお知らせ」メールに記載されたパスワード設定用の URL をクリックしてください。※URL の有効期間はメール送信日から 7 日間です。

2. 対象のクラウドアプリとの同期化

① Licensing Management Platform へのログイン

開通案内メールに記載された管理コンソール URL にアクセスすると、Licensing Management Platform（以下、LMP）へのログイン画面が表示されます。ログイン ID とパスワードを入力しログインしてください。

②Cloud App Security の管理コンソールへの移動

LMP にログインすると、以下の画面が表示されます。この画面からはお客さまの契約状況が確認可能です。

Cloud App Security（以下、CAS）の管理コンソール画面を表示するためには、アクション項目の「コンソールを開く」をクリックしてください。

TREND MICRO Licensing Management Platform Powered by TREND MICRO

ようこそ: NTTc ログアウト

登録済みの製品サービス ユーザ登録情報 サポート情報

登録済みの製品サービス

+キーの入力

サービスプラン名	製品サービス	シート/ユニット	ライセンス種別	開始日	有効期限	アクション
ライセンス	Cloud App Security	1シート	製品版	2016/08/16	自動更新	コンソールを開く

有効期限内 間もなく期限切れ 有効期限切れ

③ 初期設定（クラウドアプリとの同期化）

CAS の管理コンソールの初回ログイン時は以下の画面が表示されます。

※画面を消してしまった場合は、管理コンソールの「運用管理」→「サービスアカウント」→「追加」で行ってください。

保護するサービスの選択

×

Cloud App Securityで保護するサービスを選択します。

- ☐ Exchange Online
- ☐ SharePoint Online
- ☐ Box
- ☐ Dropbox
- ☐ Googleドライブ
- ☐ Gmail
- ☐ Microsoft Teams

注意 [運用管理]→[サービスアカウント]にある[追加]をクリックして保護するサービスを選択することもできます。

次へ

「保護するサービスの選択」より対象のクラウドアプリをご選択ください。

※本マニュアルでは「Exchange Online」を例として説明します。

④ アカウント情報の登録

表示された手順に従い、選択したクラウドアプリの認証情報(資格情報)を入力します。

※本マニュアルでは「Microsoft Office 365(Exchange Online)」を例として説明します。

1. 手順1. の「ここをクリック」を押下します。

Microsoft Exchange Onlineのアカウント情報にアクセスしています

アクセストークンの使用

手順1: Office 365グローバル管理者の資格情報を入力します。これにより、隔離管理用のExchange Web Service管理APIの使用権限がCloud App Securityに付与されます。 **ここをクリック**

手順2: すべてのメールボックスにアクセスするためのGraph APIの使用権限をCloud App Securityに付与します。ここをクリック

手順3:

2. 画面に従い、認証情報を入力します。

※Exchange Online の場合、Office365 グローバル管理者のログイン ID/パスワードを

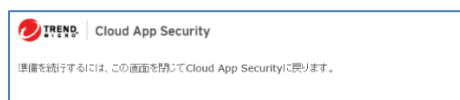
入力し、アクセス許可を承認します。

Microsoft
サインイン
メール、電話、Skype
アカウントをお持ちでない場合、作成できます。
アカウントにアクセスできない場合
サインイン オプション
次へ

Microsoft
test@workforcas.onmicrosoft.com
パスワードの入力
パスワード
パスワードを忘れた場合
サインイン

Microsoft
test@workforcas.onmicrosoft.com
要求されているアクセス許可
組織として承認する
Trend Micro Cloud App Security
lmcas.trendmicro.com
このアプリケーションは、Microsoft またはお客様の組織によって公開されたものではありません。
このアプリに必要なアクセス許可:
✓ Sign in and read user profile
✓ Read directory data
✓ Read all groups
✓ Read and write mail in all mailboxes
✓ Read all hidden memberships
✓ すべてのメールボックスへのフル アクセスによる Exchange Web サービスの使用
同意すると、このアプリは組織内のすべてのユーザーの指定のリースにアクセスできるようになります。これらのアクセス許可の承認を求めめるメッセージは、他のユーザーには表示されません。
これらのアクセス許可を受け入れることは、サービス利用規約とプライバシーに関する声明で指定されているとおりこのアプリがデータを使用することを許可することを意味します。確認を行うための利用規約へのリンクが発行元によって提供されています。これらのアクセス許可は <https://myapps.microsoft.com> で変更できます。詳細の表示
キャンセル 承認

3. 認証に成功するとブラウザの別タブに以下の画面が表示されますので、この画面を閉じて元の画面(1.の画面)に戻ります。



4. 手順 2. の「ここをクリック」を押下します。

Microsoft Exchange Onlineのアカウント情報にアクセスしています

アクセストークンの使用

手順1: Office 365 グローバル管理者の資格情報を入力します。これにより、隔離管理用の Exchange Web Service 管理 API の使用権限が Cloud App Security に付与されます。ここをクリック

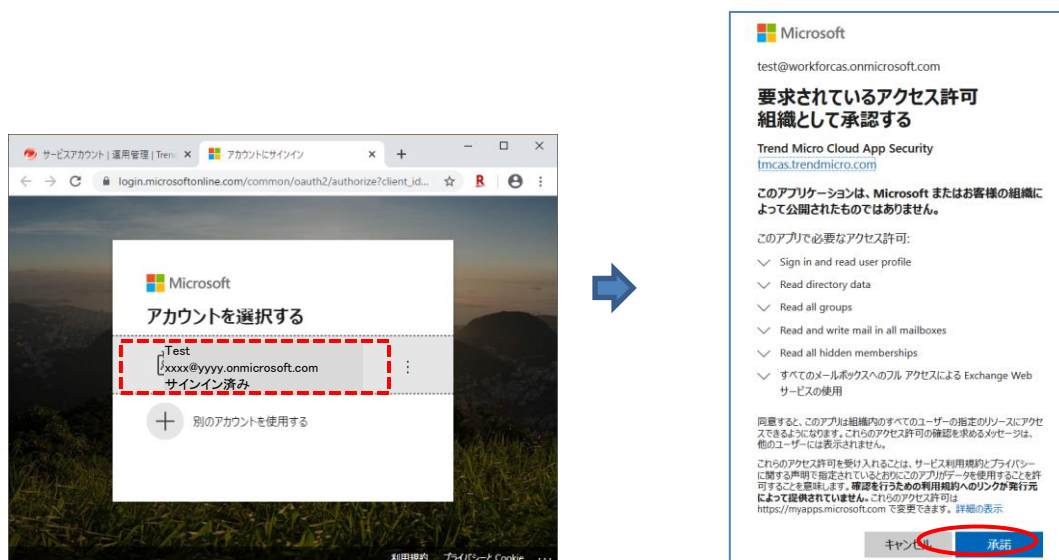
手順2: すべてのメールボックスにアクセスするための Graph API の使用権限を Cloud App Security に付与します。ここをクリック

手順3: すべてのユーザーとグループを同期

送信 キャンセル

5. 画面に従い、再度認証を行います。

※設定によっては、2. の認証情報を再度入力する場合があります。



6. 手順 3. で同期対象を指定し、「送信」を押下します。

※特別な制約がない限り、「すべてのユーザとグループを同期」を選択してください。

(同期対象からどのユーザ・グループを実際に保護対象とするかは、この後のセキュリティポリシーの設定時、「一般」メニューの中での指定となります)



⑤ 同期化完了

アカウント情報の登録が完了すると、

管理コンソール上に「成功しました」の通知が表示されます。

(画面情報のベルマークにカーソルをあてると表示されます。)

「処理中」と表示されている場合は、まだ同期作業中です。そのまましばらくお待ちください。

※同期済みのクラウドアプリの接続状態も同じ画面で確認できます。



以上で、クラウドアプリとの同期化は完了です。これにより、対象のクラウドアプリと Cloud App Security との間で通信が開始されます。

この後は、用途に合わせ、管理コンソールの「高度な脅威対策」メニューにて各クラウドアプリのセキュリティポリシーを設定し、脅威の検出を開始してください。オンラインヘルプ(管理コンソール上部の「？」ボタンを押下)に詳細がございます(「機能」⇒「高度な脅威対策」⇒「高度な脅威対策ポリシーを追加する」参照)。



なお、本マニュアル巻末でも、＜参考 1＞にてデフォルト設定を活用した、最もシンプルな設定手順を紹介しております。ご活用ください。

3. その他設定

※管理コンソールへのログイン

管理コンソールにログインするためには以下の2つの方法があります。

- ・ Licensing Management Platform からのログイン (4 頁参照)
- ・ 管理者アカウントを追加し、CAS 管理コンソール URL からログイン (次頁参照)

Licensing Management Platform からのログインが正常に行われえない場合に備え、

管理者アカウントを追加しておくことをお勧めします。

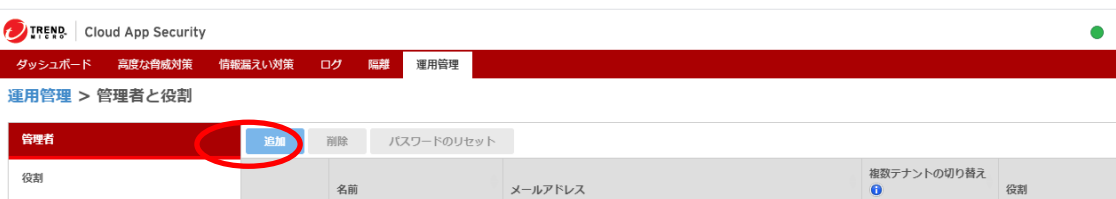
■管理者アカウント追加

管理コンソールにアクセスし各種設定変更が可能な管理者アカウントを複数作成することが可能です。

①「運用管理」より「管理者と役割」をクリックしてください。



② 左上の「追加」をクリックしてください。



- ③ 管理者として追加したい情報（メールアドレス、名前等）を記載し、「保存」をクリックしてください。

ユーザアカウント

メールアドレスを入力して役割を選択します。

メールアドレス*:

名前*:

役割*: ☒ 管理者

- ④ 記載したメールアドレス宛に以下のメールが送信されます。

件名：アラート: Trend Micro Cloud App Security アカウントのパスワードをリセットしてください

FROM：Do Not Reply <DoNotReply4@jp.tmcas.trendmicro.com>

〇〇様

Trend Micro Cloud App Security アカウントのパスワードのリセットが必要です。

次の URL をクリックしてパスワードをリセットしてください。

<https://admin.tmcas.trendmicro.co.jp/#!/XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX>

コンソール URL: <https://admin.tmcas.trendmicro.co.jp>

ユーザ名: XXXXXXXXXX

<以下省略>

⑤メールの文面に従い、URL にアクセスし、パスワードをリセットしてください。
パスワードリセット後は、上記メールに記載されている
コンソール URL (<https://admin.tmcas.trendmicro.co.jp>) より、
追加した管理者アカウントで CAS の管理コンソールにログインすることが可能です。



Trend Micro Cloud App Security
クラウドアプリケーション向けセキュリティ強化ソリューション

48,631,579
Cloud App Securityにより
検出された世界中の脅威

1.96 B
Cloud App Securityにより
検索された世界中のメールメッ
セージやファイル

電子メールや共有ファイルの 安全な利用を実現

Trend Micro Cloud App Securityは、保護対象のクラウドアプリケーションを直接統合することにより、ネットワークを追加設定したトラフィックのルーティング経路を変更したりすることなくクラウドアプリケーションの脅威対策とデータ保護を強化します。サンドボックス技術により、ファイル/バナーに頼らないOffice文書やPDFドキュメントの不正なふるまいの分析を可能にします。また、情報漏えい対策機能により、機密情報を扱う通信の可視性とコンプライアンスの監査が向上します。

ここをクリックして、サポートされるクラウドアプリケーションについて確認してください。

ユーザー名

パスワード

パスワードをお忘れの場合: [ローカルアカウント](#)

ログイン

Copyright © 2017 Trend Micro Incorporated. All rights reserved.

以上で、管理者アカウント追加は完了です。

<参考1>セキュリティポリシーの設定(デフォルト設定活用)

同期完了後、お客さまのご用途に応じ、管理コンソールの「高度な脅威対策」メニューを使用してさらにセキュリティポリシーの設定を行い、脅威の検索を開始させます。

参考として、デフォルト設定を活用した、最もシンプルな設定手順を記載いたします。
ご活用ください。 ※本マニュアルでは「Exchange Online」を例として説明します。

① デフォルトポリシーの表示

管理コンソールの「高度な脅威対策」のメニューより、設定したいクラウドアプリのデフォルトポリシー（初期設定の～ポリシー）をクリックします。



※「監視のみ」というポリシーも表示されていますが、選択しないでください。

※デフォルトポリシーを残し新たに設定したい場合は、同画面コピー機能を活用ください。

② ポリシーの修正

ポリシー画面左側の各観点を押下し、必要な修正を行います。

1. 「一般」では修正はありません。

・コピーしたポリシーを使用する場合は、ここで新たなポリシー名を設定できます。



2. 「高度なスパムメール対策」の「ルール」で以下の修正を行います。

※メールアプリのみの設定です(メニュー自体がない場合は設定不要)

- ・「高度なスパムメール対策を有効にする」にチェックにします。
- ・適用範囲を「すべてのメッセージ」に変更します
- ・検出レベルを「中」に変更します(※)



(※) 「中」が標準的な設定ですが、適切なレベルはお客様により異なります。

検出数過多/過検知・誤検知が散見されるようであれば、検出レベルを「低」に戻してご利用ください。

その下、「不正プログラム」「ファイルブロック」では特に変更はしません。

3. 「Web レピュテーション」の「ルール」「承認済み/ブロックする URL リスト」で以下の修正を行います。

- ・適用範囲を「すべてのメッセージ」に変更します
- ・「メッセージ添付ファイルに含まれる不審 URL を検索する」をチェック
- ・「承認済み URL リストを有効にする」をチェック
(結果「内部ドメインを承認済み URL リストに追加する」が有効になります)

4. 「仮想アナライザ」の「ルール」で以下の修正を行います。

- ・「次を分析：」の「URL」をチェック

5. すべての修正が済んだら、画面右下の「保存」ボタンを押下して設定を保存します。

② ポリシーの適用（脅威検知開始）

設定を保存すると、①の画面に戻るので、保存したポリシーの「オフ」をクリックして「オン」に変更します。



これで、設定した監視ポリシーが有効になり、ポリシーに従った脅威の検出が開始されます。

検出状況は、管理コンソールの「ログ」メニューにて確認下さい。

（「ログ」メニューの見方/使い方については、オンラインマニュアルを参照ください。）

<参考2>セキュリティポリシーの設定(監視のみ)

本格利用前に、事前に検知の程度を確認しておきたいなど、
実際の脅威の処理(隔離/削除など)をせずに、検知結果のみを管理コンソールに
表示したい場合は、「監視のみ」の設定が便利です。

以下の手順で設定が可能ですので、ご活用ください。

※本マニュアルでは「Exchange Online」を例として説明します。

① デフォルトポリシーの表示

管理コンソールの「高度な脅威対策」のメニューより、設定したいクラウドアプリの
デフォルトポリシー（初期設定の～ポリシー(監視のみ)）をクリックします。



② ポリシーの修正

ポリシー画面左側の各観点を押下し、必要な修正を行います。

1. 「一般」では修正はありません。

次の「高度なスパムメール対策」に進んでください。

2. 「高度なスパムメール対策」の「ルール」で以下の修正を行います。
 ※メールアプリのみの設定です(メニュー自体がない場合は設定不要)
 - ・「高度なスパムメール対策を有効にする」にチェックにします。
 - ・適用範囲を「すべてのメッセージ」に変更します
 - ・検出レベルを「中」に変更します

高度な脅威対策ポリシー | Exchange Online

一般

☒ 高度なスパムメール対策を有効にする

☒ 検出機能向上のため不審メール情報をトレンドマイクロに送信する

高度なスパムメール対策 ☒

不正プログラム検索 ☒

ファイルブロック ☒

Webレピュテーション ☒

仮想アナライザ ☒

ルール

適用: **受信メッセージ**

検出レベル: ☐ 高 ☒ 中 ☐ 低

スパムメールの検出率が最も高くなりますが、誤検出の可能性も高くなります

スパムメールの検出率が高く、誤検出の可能性は中程度です

スパムメールとして明白なものが検出され、誤検出の可能性が最も低くなります

3. 「不正プログラム検索」の「処理」で以下の修正を行います。
 - ・すべて「通知しない」に変更します。

一般

高度なスパムメール対策 ☒

不正プログラム検索 ☒

ファイルブロック ☒

Webレピュテーション ☒

仮想アナライザ ☒

ルール

処理

処理: 検出された脅威に対するカスタマイズ処理

ウイルス:	放置	および	通知
ワーム/トロイの木馬:	放置	および	通知
バックアー:	放置	および	通知
その他の不正コード:	放置	および	通知
スパイウェア/グレーウェア:	放置	および	通知
ランサムウェア:	放置	および	通知
検索不能な圧縮ファイル:	放置	および	通知しない
サイズが150MBを超えるファイル: 添付ファイルが150MBを超えるメール:	放置	および	通知しない

検索不能なメッセージのオプションを表示

その下、「ファイルブロック」では特に変更はしません。

4. 「Web レピュテーション」の「ルール」「承認済み/ブロックする URL リスト」で以下の修正を行います。

- ・適用範囲を「すべてのメッセージ」に変更します
- ・「メッセージ添付ファイルに含まれる不審 URL を検索する」をチェック
- ・「承認済み URL リストを有効にする」をチェック
(結果「内部ドメインを承認済み URL リストに追加する」が有効になります)

高度な脅威対策ポリシー | Exchange Online

一般

高度なスパムメール対策

不正プログラム検索

ファイルブロック

Webレピュテーション

仮想アナライザ

Webレピュテーションを有効にする

ルール

適用: 受信メッセージ

セキュリティレベル: ☐ 高 ☒ 中 ☐ 低

メッセージ添付ファイル: ☒ メッセージ添付ファイルに含まれる不審URLを検索する

動的なURL検索: ☒ URLをリアルタイムで分析してフィッシングWebサイトを検知する

Retro Scanと自動修復: ☐ パターンの更新時に悪意URLを再検索し、修復処理を実行する

承認済み/ブロックするURLリスト

☒ 承認済みURLリストを有効にする

☒ 内部ドメインを承認済みURLリストに追加する

追加 >

削除

インポート

エクスポート

5. 「仮想アナライザ」の「ルール」「処理」で以下の修正を行います。

- ・「次を分析:」の「URL」をチェック
- ・すべて「通知しない」に変更します。

高度な脅威対策ポリシー | Exchange Online

一般

高度なスパムメール対策

不正プログラム検索

ファイルブロック

Webレピュテーション

仮想アナライザ

仮想アナライザを有効にする

☐ 監視およびログのみ (監視モード)

ルール

次を分析: ☒ ファイル ☒ URL

適用: 受信メッセージ

処理

リスク	アクション	通知
リスク高	放置	通知
リスク中	放置	通知
リスク低	放置	通知しない
未評価	放置	通知しない

6. すべての修正が済んだら、画面右下の「保存」ボタンを押下して設定を保存します。



② ポリシーの適用（監視のみ脅威検知開始）

設定を保存すると、①の画面に戻るので、保存したポリシーの「オフ」をクリックして「オン」に変更します。



これで、設定した監視のみのポリシーが有効になり、
ポリシーに従った脅威の検出が開始されます。

検出状況は、管理コンソールの「ログ」メニューにて確認下さい。

（「ログ」メニューの見方/使い方については、オンラインマニュアルを参照ください。）